

琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897

C

C



106

北米第一課長 用

極秘
発表禁止
3部の内
3号

4 大臣
3 次官
5 森外務次官

岸外務大臣
高橋次官
森外務次官

アメリカ局長
安保局長

北米第一課長 安全保障課長

外務大臣 木下 米統幕議長会談録

日時 昭和44年10月8日 午後4時15分

~5時10分

日本側 アメリカ局長 米保長 用席 真崎参事通訳

米側 マヤ大使 マヤ在米軍司令官 同席

大臣 閣下にお越之して喜んでゐる。日本滞在が急に短縮された事があるが、この機会に私の考えを率直に説明しておきたい。

議長 ワシントン時間では明日会議があることに承知が、今夜日本と発兵は「おぼろげ」であること、大臣の即見解を喜んで伺ふ。

GA-6

外務省

3277

大臣 現在日米間で沖縄に關し精力的な交渉が行なわれていることは御承知の通りであるが、これに關し私の率直な見解を説明しておきたい。

第一に私は日本を含む北東の安定と維持することに貴国のミソトクが重要であり、これを無視しては安定を確保し得ないことを考へてゐる。朝鮮半島の緊張は日本のみならず北東の安定の見地から重視すべき重要なポイントであること、また台湾及び台湾と關する情勢も重視を許さざることを考へてゐる。従つて朝鮮半島、台湾の情勢については方々圖り外交を遂行し、日米間の意見交換を行なつて、相互の認識に相違はないと確信してゐる。このような基本的認識を持つてゐることは、互に互に日米安保条約の必要性を再確認するに十分である。

明年6月安保条約の最初10年の期間が満了するが、私達としては今後においてもこの条約を維持したいことを考へてゐる。現に今年11月の佐藤総理訪米に際して、予定である自由民主党は明日挙党一致安保条約を来年6月以降も相当長期にわたつて継続するとの決意を表明してゐる。この安保条約の維持は、中々沖縄の施政権の返還を実現するに資する。

GA 6

外務省

私達の意見である。米国の軍の立場に立って考へた
 場合、今更だ沖繩の基地をソビエトにあるものと同等に
 自由に使用せしめ、施政権返還後不安定な条約の
 ためにあつた使用せざるが心配されるのはつとて
 と思ふ。問題は平等協定制度を日米双方の完
 全一致の見解のもとに共通の目的のために運用
 するに如何に重要なると思ふ。現在私には大使
 と共にこの方法論についてお互の知見をやり取り
 満足し得るものを作らうと努力しているところである。
 日本語で名と実という諺があるが、実をばはら
 ず名をばはらすは、米国の立場と十分に満足せざる
 がうらむと共に日本に對しては、独立国としての名
 を守らねばならぬ。この両者が如何に相あつてこれにて
 この問題をうまく処理できると思ふ。

私は先づこの問題がソビエトからの帰途本陣
 においてマツケン太平洋軍司令部を訪問し、日米の間
 柄でもあつた腹藏なく話をして、それから100
 パーセントは行かぬも9割9分までにはマツケン司令
 官の意見を拭き去るに成功したと思ふ。また私
 の方も同司令部を考へた方が十分よくやつて行けると思
 つた。

GA-6

更に念のため申せば、私にこの残存を思つて
 二日は日本の新博が正確に日本国民のマツケンに意見を
 を代表していふことである。私達の意見は条約
 締結は日本に有利であるので、左翼分子や一部の
 新博のほうにアメリカ帝国主義の野心を奉仕するに
 向かふことは考へない。私達の意見は、この選挙
 において多数の支持を受けよう。今度の選挙に
 ついて、沖繩の施政権返還の方向が決まらぬま
 だ、選挙が行なわれるに、この間は、米国人
 が血を流した沖繩の施政権の返還が、
 解決するまでは、日本国民はこれに、
 受け、私達の勢力は日本に定着し、日本はアメリカに
 対するアメリカの良き協力者の役割を果し、
 選挙で実現し、この実現は、
 際申し上げたい。

以上が、自分のマツケン フィロソフィーの骨子
 である。

議長 大臣の平直かつ委曲をつくした御説明に感謝
 する。自分にも大臣のフィロソフィーは理解できるが、
 自分の考へを申し述べたい。

安全保障に關する米国の政策の目的は、戦争

GA-6

抑止にある。米國は米=次大戰後朝鮮半島において
 戦い。現在少いたし。において 戦っているが。米軍人
 も米国民一般も基本的に戦争は曲避し。と考えている
 従って日本や沖縄にある米軍基地は戦争と不可分の
 部分。戦争を抑止するに必要である。共産主義者の侵
 略意図と抑止するに必要。米國は全般の抑止態
 勢を維持する必要がある。これは日本の利益と
 合致するところである。結果として戦争の抑止
 を為すに当たっては。中兵の力が。増大して。するに
 必要。入。た。す。は。中兵が核戦力を
 発展させている。これは朝鮮。北越。など。に
 等々の影響力の確保の必要から。去。る。は。は。は。
 二。の。は。必要に。た。す。る。た。け。は。中兵は既に
 十分な通常軍備を。持っている。中兵の核戦力の開発
 は。革命の目的のため必要。政治的。軍事的
 圧力のために利用する。と。と。目的。と。して。る。た。け。である。
 現在沖縄に。関し。日米間。の。行。な。は。て。は。交
 渉。相。互。に。満足。し。得。る。合。意。に。到達。する。と。考。え。て。は。
 思。う。が。これは。日本。を。満足。させる。と。も。米。國。も。
 満足。させる。と。も。で。な。く。は。な。ら。ず。平。直。に。言。之。は。米。國
 内。に。も。種。々。の。問題。が。ある。米=次大戰に。参加。した

例。之。は。米。國。人。の。中。に。は。特殊な感情と根拠を持
 統。り。て。いる。と。も。あり。これは。米。國。会。方。面。に。も。影響。を。与。え。て。いる
 次。に。核。兵。器。に。関。し。て。若干。の。中。止。げ。を。米。國。側。の
 方。面。に。は。守。衛。用。器。等。に。見。ゆ。か。ら。ぬ。高。い。水。準。に。な
 る。か。二。の。高。い。水。準。の。方。面。に。は。我。々。に。対。する。脅。威
 を。構成。し。て。いる。米。國。の。抑。止。力。は。通常。軍。力。と。核。戦
 力。が。一。体。に。な。り。て。構成
 して。いる。さ。ら。に。沖。縄。問題。に。関。し。て。核。戦。力。の
 問題。は。重要。である。と。も。自。分。は。核。に。関。し。て。は。交渉
 上。に。お。いて。解決。の。見。通。し。が。全。く。無。い。と。言。う。べ。い。な
 い。の。で。は。な。い。
 大臣の。即。説明。が。中。直。に。明。解。な。ら。ぬ。で。自。分
 も。自。分。の。側。の。問題。を。手。近。に。申し。上げ。た。次。才。二
 あり。
 大臣 抑止戦略の必要性は理解できるところである
 が。これは。関連。し。て。現。在。沖。縄。に。は。どの。程度。の
 核。兵。器。が。あり。また。将来。どの。程度。の。と。置。く。は
 要。が。ある。か。自。分。は。米。國。に。は。核。に。関。し。て。の。情報。に。関
 し。て。は。二。十。と。規。制。する。嚴。重。な。法。律。が。あり。て。は。自。知
 して。お。る。か。今。中。止。の。方。面。に。関。し。て。放。置。し。て。置。き。か
 議長 自。分。は。その。有限。を。持。て。て。いる。核。の。威。力。を
 外務省

法律があるので、自分から申し上げると自分はその法律の案の罰則の適用を受けることになる。即使用の事項に大臣に教える権利があるので、大統領だけである大臣おろかで社を失った傾向であったか、知るか。日本では核に特別な感情があるので、このように二つの話題になるべきである。

議長 大臣の使用は決いて、おろかでも社を失ったものである。大臣が日本国民の感情に配慮するに当って難かしい点があることを理解出来る。しかし、日本も原子力商船を建造しているが、原子力船は核燃料の燃料はコントロールされた原子爆弾と異なり、石油資源の乏しい日本にとって原子力の開発は重要なことであり、日本国民の核についての考え方が変わる時が必ず来ると思ふ。

大臣 七二一素朴な傾向がある。自分もNPTに早くサインしなさいと思っているが、NPTの基礎になっている考え方は各国が平和利用は保証されるが核兵器にはない。現存有国に限定されることになる。先ほど中絶国最後は、アメリカは中絶に核兵器拡散せず、米領域内におくか筋ではおろかという傾向を有るものがある。このように傾向に反対する如何に説明

出来るか。

議長 NPTは核兵器の他国への移転は禁止するが、核兵器の他国への配置は制限しない。米国の全般的な戦争抑止力の一環として核兵器を世界各地に配置しているのがある。危機にあってはじめて米国の何時でも何日でもかけて運ぶという作態動にある。過去にこの事が敵に知られて、たまたま抑止力としての効果がない。核兵器の問題は、如何なる時に核兵器を使用するかという問題とつながることは必要である。なお、NATO諸国も米国の核兵器が配置されていることは即ち知ることである。

大使 議長の説明は一頁だけつけ加えておきたい。これは中絶は核兵器の他、既に中距離ミサイルを開発していることである。抑止の問題を考へるに当たっては、この点も考慮に入らなければならない。

いすかにせよ、二日から、十一月までいろいろ話し合えて行きたい。お互に沖縄NPTを消滅問題等を多忙である。

なお、二三日、九州地方を旅行し、各界の人と会って来る。

大臣 オリンピックの話が去たというに反して、
 大使 米問題の直接談判を受けた。自分から米国は
 日本から40億ドルの輸入をしているがその輸入品目
 の中には米国内産品と競合するものもある。米国は
 日本に^{対し}~~特別な~~ 特別の特権^的地位
~~を~~ 与えていると求めているので「再」を説明
 してあげた。

以上